

「総がかり行動」からなにを受け継ぐか

HOWS討論

「総がかり行動」からなにを受け継ぐか 戦争するための改憲を阻止する幅広い共同を！

飯島滋明(名古屋学院大学准教授) 戦争をさせない1000人委員会事務局次長 十 受講生

以下は、飯島滋明さんの報告をうけての討論の記録である。
【編集部】

運動の評価について

友田幸枝 (HOWS受講生)

友田 今後は「闘っていか」という感じではなかったと、このことを議論する上で、この間の国会前での行動も集会がどうだったのかというところを考えると、多くの国民が集まるとは思いますが、そのことについては、一定の評価をしていいのではないかと、思っています。

聖學院大学の石川裕一郎さん(注)「若い人たちが、個人で考え、個人で判断し、個人の責任を持って動いた。……可決後も絶望や徒労感はなく、むしろ明るい」という評価をしているし、また運動の一部からは「負けた気がしない」という総括が聞かれます。

しかし、その後の安倍たちの行動、たとえば正当な臨時国会を拒否したり、平気で憲法を無視しています。運動側の評価は甘いのではないのでしょうか？

飯島 いろいろな意見があるかと思いますが、しかし、これまでも様々な問題があったなかで、あれほど国会前に人が集まるということがあったのかどうかというところが、一つ評価の基準になると思います。

二〇〇三年の小泉純一郎内閣の時に有事法制がつけられましたが、今回のような運動にはなっていないかと思えます。あの問題も日本の国あり方を変える一大転機だったと思いますが、その時でもそこまで運動が盛り上がり、

ただ、そこで終わりにしていいのか、という問題になると思います。そこは今日のわたしの報告でも一定のスタンスを示したと思うのですが、あれで「成功しました」「これでハッピーエンディングです」と言ってしまうと、大きな間違いだろうなと思えます。むしろ、その先を見据えなければいけない。あくまでも、わたしたちが目指す成功は戦争法を廃案に追い込むことだと思います。だから九月十九日に法案が成立しましたが、あそこで負けたというのも、わたしは逆に早計だと思えます。法案を廃案に追い込むためにここからいかに闘っていくか、ということだと思っています。

例えは、中国の歴史で項羽と劉邦が戦って、ずいぶん劉邦が負けていた。しかし結局、最後の戦いで我々が勝つて、いろいろな戦略を練った。最後の戦いで項羽に勝つた。漢の四〇〇年の歴史を築いたわけです。だから、一回の闘いで、勝つた、負けたを判断するのは早計だと思えます。戦争法はできてしまったけれど、ここからまた先があるんだぞ、今に見ていこうという思いは持ち続けなければいけないと思っています。そのため

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりで、次の闘い、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところからいかに闘っていくか、ということだと思っています。

藤原 わたしの職場は神奈川県内の定時制高校です。今日の意図があるのは当然です。特にお話にもあつたように、運動の盛り上がり

が積み重ねられたけれども、その都度、選挙では覆されていく。ここから何を学び取るのか、という問題提起をされたんですが、わたしもそこ

に注目しています。国会でのひびきや、衆議院では審議が二〇〇回も止まった話もありました。しかも運動が盛り上がり、選挙では覆ってしまふ世論。わたしがここから学び取るべきことは、選挙の要国会審議だけに視界を限っていたのでは、労働者です。しかしその実態はありませぬ。それは、週八〇時間を超える残業が当たり前であるような多忙化、「日丸・君が代」をめぐる状況を見れば明らかです。

きよりも、原発のときよりも、少しずつ広がっている。職種の多様化も同様です。じゃあ、今度の参院選までのプログラムは、ということはどうも議論や発想がせつちかちかになってしまふ。それこそ本意に止めようとするならば、せつちかちかという状況をつくらない限り、無理ではないです。それがいつか、と

先ほど「国民投票は為政者側が利用してきた」と話もありましたが、「一八歳選挙」

争法を止める」と叫ばれは

ますが、ストライキという発想が、わたしの労働組合には無いのが現実です。状況判断としての意味ではなく、ストライキを打てるような思想的な変化を組合員一人ひとりが獲得するためにはなにをすべきか、という発想がないという意味です。

ではなぜ、ストライキを思想的にも否定するのかが不思議になるのですが、これも組合員になるのだから、いつも組合の執行部や、周辺の活動家面々と話した経験からです。が、「階級学説はもう古い」とか「大きな物語は終わったんだ」とか「イデオロギー

ところが、現場の感触はまったく逆なのです。わたしの目の前の生徒たちの暮らしは日々厳しくなっています。突然学校に来なくなったりしたら、親子で夜逃げしている子も少なくないです。日かかるといってしまう。かといってSEALDsに現れたような動きを「リア充」の自満で否定するのは、広汎な支持を獲得し、いっそう広げていくことを目指すためには、大学の自治、学問の自由、武器を売って、景気対策は万全だと言っています。一〇〇〇円の最低賃金もや

「国会前」の闘いと自らの足元の闘いをつなぐ
藤原 晃 (神奈川県高教組)

藤原 わたしの職場は神奈川県内の定時制高校です。今日の意図があるのは当然です。特にお話にもあつたように、運動の盛り上がり

が積み重ねられたけれども、その都度、選挙では覆されていく。ここから何を学び取るのか、という問題提起をされたんですが、わたしもそこ

に注目しています。国会でのひびきや、衆議院では審議が二〇〇回も止まった話もありました。しかも運動が盛り上がり、選挙では覆ってしまふ世論。わたしがここから学び取るべきことは、選挙の要国会審議だけに視界を限っていたのでは、労働者です。しかしその実態はありませぬ。それは、週八〇時間を超える残業が当たり前であるような多忙化、「日丸・君が代」をめぐる状況を見れば明らかです。

きよりも、原発のときよりも、少しずつ広がっている。職種の多様化も同様です。じゃあ、今度の参院選までのプログラムは、ということはどうも議論や発想がせつちかちかになってしまふ。それこそ本意に止めようとするならば、せつちかちかという状況をつくらない限り、無理ではないです。それがいつか、と

先ほど「国民投票は為政者側が利用してきた」と話もありましたが、「一八歳選挙」

争法を止める」と叫ばれは

ますが、ストライキという発想が、わたしの労働組合には無いのが現実です。状況判断としての意味ではなく、ストライキを打てるような思想的な変化を組合員一人ひとりが獲得するためにはなにをすべきか、という発想がないという意味です。

ではなぜ、ストライキを思想的にも否定するのかが不思議になるのですが、これも組合員になるのだから、いつも組合の執行部や、周辺の活動家面々と話した経験からです。が、「階級学説はもう古い」とか「大きな物語は終わったんだ」とか「イデオロギー

ところが、現場の感触はまったく逆なのです。わたしの目の前の生徒たちの暮らしは日々厳しくなっています。突然学校に来なくなったりしたら、親子で夜逃げしている子も少なくないです。日かかるといってしまう。かといってSEALDsに現れたような動きを「リア充」の自満で否定するのは、広汎な支持を獲得し、いっそう広げていくことを目指すためには、大学の自治、学問の自由、武器を売って、景気対策は万全だと言っています。一〇〇〇円の最低賃金もや

ところが、現場の感触はまったく逆なのです。わたしの目の前の生徒たちの暮らしは日々厳しくなっています。突然学校に来なくなったりしたら、親子で夜逃げしている子も少なくないです。日かかるといってしまう。かといってSEALDsに現れたような動きを「リア充」の自満で否定するのは、広汎な支持を獲得し、いっそう広げていくことを目指すためには、大学の自治、学問の自由、武器を売って、景気対策は万全だと言っています。一〇〇〇円の最低賃金もや

ところが、現場の感触はまったく逆なのです。わたしの目の前の生徒たちの暮らしは日々厳しくなっています。突然学校に来なくなったりしたら、親子で夜逃げしている子も少なくないです。日かかるといってしまう。かといってSEALDsに現れたような動きを「リア充」の自満で否定するのは、広汎な支持を獲得し、いっそう広げていくことを目指すためには、大学の自治、学問の自由、武器を売って、景気対策は万全だと言っています。一〇〇〇円の最低賃金もや

ところが、現場の感触はまったく逆なのです。わたしの目の前の生徒たちの暮らしは日々厳しくなっています。突然学校に来なくなったりしたら、親子で夜逃げしている子も少なくないです。日かかるといってしまう。かといってSEALDsに現れたような動きを「リア充」の自満で否定するのは、広汎な支持を獲得し、いっそう広げていくことを目指すためには、大学の自治、学問の自由、武器を売って、景気対策は万全だと言っています。一〇〇〇円の最低賃金もや

ところが、現場の感触はまったく逆なのです。わたしの目の前の生徒たちの暮らしは日々厳しくなっています。突然学校に来なくなったりしたら、親子で夜逃げしている子も少なくないです。日かかるといってしまう。かといってSEALDsに現れたような動きを「リア充」の自満で否定するのは、広汎な支持を獲得し、いっそう広げていくことを目指すためには、大学の自治、学問の自由、武器を売って、景気対策は万全だと言っています。一〇〇〇円の最低賃金もや

ところが、現場の感触はまったく逆なのです。わたしの目の前の生徒たちの暮らしは日々厳しくなっています。突然学校に来なくなったりしたら、親子で夜逃げしている子も少なくないです。日かかるといってしまう。かといってSEALDsに現れたような動きを「リア充」の自満で否定するのは、広汎な支持を獲得し、いっそう広げていくことを目指すためには、大学の自治、学問の自由、武器を売って、景気対策は万全だと言っています。一〇〇〇円の最低賃金もや

ところが、現場の感触はまったく逆なのです。わたしの目の前の生徒たちの暮らしは日々厳しくなっています。突然学校に来なくなったりしたら、親子で夜逃げしている子も少なくないです。日かかるといってしまう。かといってSEALDsに現れたような動きを「リア充」の自満で否定するのは、広汎な支持を獲得し、いっそう広げていくことを目指すためには、大学の自治、学問の自由、武器を売って、景気対策は万全だと言っています。一〇〇〇円の最低賃金もや

ところが、現場の感触はまったく逆なのです。わたしの目の前の生徒たちの暮らしは日々厳しくなっています。突然学校に来なくなったりしたら、親子で夜逃げしている子も少なくないです。日かかるといってしまう。かといってSEALDsに現れたような動きを「リア充」の自満で否定するのは、広汎な支持を獲得し、いっそう広げていくことを目指すためには、大学の自治、学問の自由、武器を売って、景気対策は万全だと言っています。一〇〇〇円の最低賃金もや

ところが、現場の感触はまったく逆なのです。わたしの目の前の生徒たちの暮らしは日々厳しくなっています。突然学校に来なくなったりしたら、親子で夜逃げしている子も少なくないです。日かかるといってしまう。かといってSEALDsに現れたような動きを「リア充」の自満で否定するのは、広汎な支持を獲得し、いっそう広げていくことを目指すためには、大学の自治、学問の自由、武器を売って、景気対策は万全だと言っています。一〇〇〇円の最低賃金もや

ところが、現場の感触はまったく逆なのです。わたしの目の前の生徒たちの暮らしは日々厳しくなっています。突然学校に来なくなったりしたら、親子で夜逃げしている子も少なくないです。日かかるといってしまう。かといってSEALDsに現れたような動きを「リア充」の自満で否定するのは、広汎な支持を獲得し、いっそう広げていくことを目指すためには、大学の自治、学問の自由、武器を売って、景気対策は万全だと言っています。一〇〇〇円の最低賃金もや

ところが、現場の感触はまったく逆なのです。わたしの目の前の生徒たちの暮らしは日々厳しくなっています。突然学校に来なくなったりしたら、親子で夜逃げしている子も少なくないです。日かかるといってしまう。かといってSEALDsに現れたような動きを「リア充」の自満で否定するのは、広汎な支持を獲得し、いっそう広げていくことを目指すためには、大学の自治、学問の自由、武器を売って、景気対策は万全だと言っています。一〇〇〇円の最低賃金もや

ところが、現場の感触はまったく逆なのです。わたしの目の前の生徒たちの暮らしは日々厳しくなっています。突然学校に来なくなったりしたら、親子で夜逃げしている子も少なくないです。日かかるといってしまう。かといってSEALDsに現れたような動きを「リア充」の自満で否定するのは、広汎な支持を獲得し、いっそう広げていくことを目指すためには、大学の自治、学問の自由、武器を売って、景気対策は万全だと言っています。一〇〇〇円の最低賃金もや

ところが、現場の感触はまったく逆なのです。わたしの目の前の生徒たちの暮らしは日々厳しくなっています。突然学校に来なくなったりしたら、親子で夜逃げしている子も少なくないです。日かかるといってしまう。かといってSEALDsに現れたような動きを「リア充」の自満で否定するのは、広汎な支持を獲得し、いっそう広げていくことを目指すためには、大学の自治、学問の自由、武器を売って、景気対策は万全だと言っています。一〇〇〇円の最低賃金もや

ところが、現場の感触はまったく逆なのです。わたしの目の前の生徒たちの暮らしは日々厳しくなっています。突然学校に来なくなったりしたら、親子で夜逃げしている子も少なくないです。日かかるといってしまう。かといってSEALDsに現れたような動きを「リア充」の自満で否定するのは、広汎な支持を獲得し、いっそう広げていくことを目指すためには、大学の自治、学問の自由、武器を売って、景気対策は万全だと言っています。一〇〇〇円の最低賃金もや



ケーテ・コルヴィッツ「子どもを抱く母」(1916年)

が不思議になるのです。例えばSEALDsで集まった若者の層を、積極的に評価するようになっていっています。ただ、違つかもしれない点を、わざと頭を点けて出しています。

率直に言って、大学の自治は「自衛隊は憲法違反だ」というと、恐らくいまは国民が引くと思つてます。被災地で「自衛隊は憲法違反だ」なんて言ったら、多分殴りかかられるくらいに怒られると思います。ですから、「自衛隊はまずいね、徐々に小さくしていきたいと思います」という議論をしておいて、いっすそのうちに「憲法違反だ」とい

民がどう考えているのかも、考える方がいいとわたしは思っています。そこは、大学の自治を前面に出すべきじゃないか、という意見は、そうだし、なんとも言えません。しかし、恐らくいま「大学の自治を守りましょう」という意見を聞いてわたしがうろたえる、と思ったのは、やはり実体は強いということだと思います。戦争法というのは、じつといる奴らが、何か言っているな、終わっちゃうかなって感じがするんですよ。おっしゃることは本当に、そのとおりだと思います。しかし、わたしが闘つた場合、非正規社員が増える、ということを出して闘つると、教育関係の予算がどんどん減らされることによって、子どもたちの教育を受ける権利、あるいは生活環境がどんどん悪くなる、ということも、米安保条約で、この条約は憲法違反だから破棄しろ、という議論をいましてどうか、と

を直視し、そうやってきた過程を直視し、大学職員として学生層と連携して闘う方向が呼びかけられるべきだと考えています。わたしは学生時代に自治寮を追い出されて、その反対運動でいまみたいになっているものだから、私的な思いも多少入っているの

が不思議になるのです。例えばSEALDsで集まった若者の層を、積極的に評価するようになっていっています。ただ、違つかもしれない点を、わざと頭を点けて出しています。

率直に言って、大学の自治は「自衛隊は憲法違反だ」というと、恐らくいまは国民が引くと思つてます。被災地で「自衛隊は憲法違反だ」なんて言ったら、多分殴りかかられるくらいに怒られると思います。ですから、「自衛隊はまずいね、徐々に小さくしていきたいと思います」という議論をしておいて、いっすそのうちに「憲法違反だ」とい

民がどう考えているのかも、考える方がいいとわたしは思っています。そこは、大学の自治を前面に出すべきじゃないか、という意見は、そうだし、なんとも言えません。しかし、恐らくいま「大学の自治を守りましょう」という意見を聞いてわたしがうろたえる、と思ったのは、やはり実体は強いということだと思います。戦争法というのは、じつといる奴らが、何か言っているな、終わっちゃうかなって感じがするんですよ。おっしゃることは本当に、そのとおりだと思います。しかし、わたしが闘つた場合、非正規社員が増える、ということを出して闘つると、教育関係の予算がどんどん減らされることによって、子どもたちの教育を受ける権利、あるいは生活環境がどんどん悪くなる、ということも、米安保条約で、この条約は憲法違反だから破棄しろ、という議論をいましてどうか、と

が不思議になるのです。例えばSEALDsで集まった若者の層を、積極的に評価するようになっていっています。ただ、違つかもしれない点を、わざと頭を点けて出しています。

率直に言って、大学の自治は「自衛隊は憲法違反だ」というと、恐らくいまは国民が引くと思つてます。被災地で「自衛隊は憲法違反だ」なんて言ったら、多分殴りかかられるくらいに怒られると思います。ですから、「自衛隊はまずいね、徐々に小さくしていきたいと思います」という議論をしておいて、いっすそのうちに「憲法違反だ」とい

民がどう考えているのかも、考える方がいいとわたしは思っています。そこは、大学の自治を前面に出すべきじゃないか、という意見は、そうだし、なんとも言えません。しかし、恐らくいま「大学の自治を守りましょう」という意見を聞いてわたしがうろたえる、と思ったのは、やはり実体は強いということだと思います。戦争法というのは、じつといる奴らが、何か言っているな、終わっちゃうかなって感じがするんですよ。おっしゃることは本当に、そのとおりだと思います。しかし、わたしが闘つた場合、非正規社員が増える、ということを出して闘つると、教育関係の予算がどんどん減らされることによって、子どもたちの教育を受ける権利、あるいは生活環境がどんどん悪くなる、ということも、米安保条約で、この条約は憲法違反だから破棄しろ、という議論をいましてどうか、と

を直視し、そうやってきた過程を直視し、大学職員として学生層と連携して闘う方向が呼びかけられるべきだと考えています。わたしは学生時代に自治寮を追い出されて、その反対運動でいまみたいになっているものだから、私的な思いも多少入っているの

が不思議になるのです。例えばSEALDsで集まった若者の層を、積極的に評価するようになっていっています。ただ、違つかもしれない点を、わざと頭を点けて出しています。

率直に言って、大学の自治は「自衛隊は憲法違反だ」というと、恐らくいまは国民が引くと思つてます。被災地で「自衛隊は憲法違反だ」なんて言ったら、多分殴りかかられるくらいに怒られると思います。ですから、「自衛隊はまずいね、徐々に小さくしていきたいと思います」という議論をしておいて、いっすそのうちに「憲法違反だ」とい

民がどう考えているのかも、考える方がいいとわたしは思っています。そこは、大学の自治を前面に出すべきじゃないか、という意見は、そうだし、なんとも言えません。しかし、恐らくいま「大学の自治を守りましょう」という意見を聞いてわたしがうろたえる、と思ったのは、やはり実体は強いということだと思います。戦争法というのは、じつといる奴らが、何か言っているな、終わっちゃうかなって感じがするんですよ。おっしゃることは本当に、そのとおりだと思います。しかし、わたしが闘つた場合、非正規社員が増える、ということを出して闘つると、教育関係の予算がどんどん減らされることによって、子どもたちの教育を受ける権利、あるいは生活環境がどんどん悪くなる、ということも、米安保条約で、この条約は憲法違反だから破棄しろ、という議論をいましてどうか、と

「総がかり行動」からなにを受け継ぐか

これこそアジアの民衆の二〇〇〇万人か三〇〇〇万人(歴史学者によって違いますが、そして日本国民三〇〇万人の犠牲の上でできたものです。ただ、わたしはそれだけで語るのには失礼だと思つています。それは日本軍「慰安婦」や強制連行をされた人々の存在です。かれら、彼女らは二〇〇〇〇万人のなかには入っていないんですね。日本の侵略戦争の被害を受けた人たちの数は、本言に莫大な数になります。

わたしは毎年六月三十日には花岡事件の慰霊祭に参加していますが、自分のおじいちゃんや家族が斃り殺されたという遺族は、本言に泣き出すんです。わたしは泣いていたまじりなくあります、それを思うといま現在たつて戦争被害は続いているんです。だから、先ほど述べた数字だけでは語れないものは、たくさんあると思つてます。そういうことを一度とせんと定めたのが、日本国憲法だと思つてます。

感をかけるから止めましょう。能になつていっているんです。やはり教育とセツトで行なわれている。第一次安倍政権の時、散々それを言っていたんです。教育を通じて軍国主義を進めるといふところは、警戒する必要があります。日本政府はその狙いの一環として、日本軍はそんなことをしていないといふことを言っています。わたしは平和学の授業で、第一回目に生徒たちに原爆投下の映像を見せました。わたしは中学校の時に見た覚えがあるんです。しかしいまは大学生も見たことがないです。あるいは日本軍「慰安婦」や南京大虐殺なども、初めて聞きましたと大学のレポートで書くんです。高校でも教えるらしい雰囲気があるんだと思つてます。だからわたしは、高校の先生たちの組合でも、何かあったら呼んでくださいと言つてます。大学の先生が言うのであれば、問題ないでしょうからと言つたら、明後日呼ばれてしまいました。それで資料を作らなくちゃいけないって悩んでいるんです。だからアメリカが評価するし、批判が出てきつらいいと思つてます。でも日本語だけ見ると、責任逃れの文章で、す。

安倍政権の下で教育を通じて国民に対して、「侵略戦争はなかった。あるいは「国を守ることは大切だ」といふことは、よくわかります。安倍政権の下で教育を通じて国民に対して、「侵略戦争はなかった。あるいは「国を守ることは大切だ」といふことは、よくわかります。安倍政権の下で教育を通じて国民に対して、「侵略戦争はなかった。あるいは「国を守ることは大切だ」といふことは、よくわかります。

タリと無くなりました。もう一つの問題ですが、飯島さんも言われましたように、沖繩の問題を、われわれはどこの風にも理解し、かつ本土でこの闘いに呼応し闘つていくのか。戦争法案の闘いが沖繩の反基地闘争と結びつかないことは、本言の意味での戦争法案の闘いの勝利といふことにはならないと思つてます。だから、沖繩で反戦平和運動を闘っている人たちは、戦争法案の具体的な実質化が辺野古の新基地建設と。そのことを本土の戦争法に反対している人たちは、あまり理解していないのではないかと。この鋭い批判もされていま

**憲法をいかして闘う
沖繩との連帯を
日向よう子 (HOWS受講生)**

日向 HOWSから辺野古への基地建設を許さない実行委員会に参加しています日向といます。国会包囲行動などにも参加しています。自分の運動の課題は反戦平和であり、辺野古の新基地建設をいかに止めるか、これを絶対に止めるために活動しています。それを前提に話したいのですが、沖繩の闘いは歴史認識を基礎にしているという点で、翁長雄志知事が那覇市長であった時、四二市町村代表とともに安倍政権につきつけた「建白書」オスプレイの配備撤回、普天間基地の閉鎖撤去、県内移設断念をもとめる、すなわち辺野古新基地建設反対という統一課題を掲げた「建白書」のものと「島ぐるみ会議」という地域の連携と「オール沖繩会議」という諸団体をまとめる組織づくりを行なっている。この三つが現場と結びついていることが大きいと思つてます。

現場の非暴力・不服従の闘いを保障しているのも、現行憲法の改憲勢力は、日本会議を基にした「美しい日本の憲法をつくる国民の会」が、二万三〇〇〇人の集会を日本武道館でやりましたが、参議院選挙で勝てば、戦後初めての改憲勢力が衆参で多数派をとる改憲の好機がくると位置付けて、参議院選後の改憲を狙っています。その動きは辺野古新基地建設阻止の闘いに打撃をあたえようとして、新基地建設が必要であるという法的根拠をつくこともにもなると思つてます。今後「総がかり行動」が辺野古新基地建設阻止の国会包囲行動で共闘することになります。辺野古新基地建設阻止の運動そのものがむしろ憲法を変えさせないことと、安倍政権を倒すということをイコールで結んだ闘いを取り組む必要

作っていくものだから。確かに憲法の平和主義というものは、別に九条と前文だけじゃないんです。地方自治も立派な平和主義の環なんで。先ほどわたしは財政の話もしましたが、そういうものを基礎にして沖繩が闘っているという議論はしてみようかなと思つてます。ホームページにもわたしの文章で、これを載せてくれと言えは、載せてくれますので。そうやって沖繩の法廷闘争などと一緒に関

平和憲法を規範とする法律の具体的な条項で、沖繩はいま闘っています。これの正当性を見に行く必要があると思つてます。飯島 恐らく知らない人が見ます。先ほどわたしは財政の話と言つて思いますが、これを基礎にして沖繩が闘っているという議論はしてみようかなと思つてます。ホームページにもわたしの文章で、これを載せてくれと言えは、載せてくれますので。そうやって沖繩の法廷闘争などと一緒に関

戦争法反対の統一戦線の形成を
倉林正明 (HOWS受講生)